# Thank you for 14years! "HURRICANE BOY" KENTA HIROSE #24

## KENTA HIROSE ～広瀬健太 サンロッカーズ渋谷での軌跡～

**広瀬 健太**
Kenta Hirose
1985/07/11
193cm/90kg
青山学院大学 / 島根県

24 2016-17
**広瀬 健太**
Kenta Hirose
2016-17 Season
58games



24 2017-18
**広瀬 健太**
Kenta Hirose
2017-18 Season
44games

24 2018-19
**広瀬 健太**
Kenta Hirose
2018-19 Season
49games

24 2019-20
**広瀬 健太**
Kenta Hirose
2019-20 Season
27games

24 2020-21
**広瀬 健太**
Kenta Hirose
2020-21 Season
59games

24 2021-22
**広瀬 健太**
Kenta Hirose
2021-22 Season
56games

みなさんこんにちは。広瀬健太です。

今シーズンで引退することにしました。
サンロッカーズ以外でプレーすることは考えていなかったので
サンロッカーズの選手として引退することができて良かったです。

いろいろとコメント考えましたが、今までの選手生活を鑑みてみると
感謝の言葉しかでてきませんでした。

いつも順風満帆のバスケットボール人生ではありませんでしたが、
多くの方に支えられてチームのため、
ひいては自分のために

大好きなバスケットボールを精一杯プレーすることができました。

正直なところ、私自身は寂しいと肩の荷が下りたのと
ごっちゃまぜな気持ちです。

ですが中には私以上にショックを受ける方も
いらっしゃるかもしれません。

きっとそういった方は
たくさん応援してくださった方なんだと思います。
そんな方を傷付けてしまう事が一番の心残りです。
（自意識過剰ですみません。）

楽しいバスケットボール人生でした。
みなさん、ありがとう。

2022/5/27 引退発表時の本人コメント

## Awards and Title

- **2000** 島根県松江市立湖東中学校
  - ― 県総体優勝、中国総体優勝、全国総体ベスト16
- **2003** 島根県立松江東高校
  - ― 長崎インターハイベスト８
- **2007** 青山学院大学
  - ― インカレ優勝、最優秀選手賞受賞
- **2008** パナソニックトライアンズ
  - ― JBL 2008-09 ルーキー・オブ・ザ・イヤー受賞
- **2009** ユニバシアード日本代表
  - 東アジア大会日本代表
- **2010** アジア大会日本代表
- **2011** 東アジアバスケットボール選手権 日本代表 準優勝
  - FIBA ASIA 男子バスケットボール選手権 日本代表
- **2013** 第 88 回天皇杯　優勝
- **2014** 日立サンロッカーズ東京
  - ウイリアムジョーンズカップ 日本代表（キャプテン）
- **2015** 第 90 回天皇杯　優勝
  - ― 男子大会ベスト５受賞
- **2016** サンロッカーズ渋谷
  - ― 2016-17 B リーグスティール王
- **2020** 第 95 回天皇杯　優勝

## Career Stats

| Season | League | Team | Game | GS | Points | PTS/G | 3PM | 3PA | 3P% | 2PM | 2PA | 2P% | FTM | FTA | FT% | OR | DR | TR | AS | ST | BS |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2008-09 | JBL | パナソニックトライアンズ | 33 | 20 | 178 | 5.4 | 13 | 63 | 20.6% | 52 | 130 | 40.0% | 35 | 58 | 60.3% | 32 | 43 | 75 | 26 | 39 | 5 |
| 2009-10 | JBL | パナソニックトライアンズ | 42 | 37 | 330 | 7.9 | 25 | 74 | 33.8% | 105 | 218 | 48.2% | 45 | 67 | 67.2% | 47 | 102 | 149 | 48 | 47 | 10 |
| 2010-11 | JBL | パナソニックトライアンズ | 36 | 36 | 434 | 12.1 | 45 | 127 | 35.4% | 104 | 249 | 41.8% | 91 | 137 | 66.4% | 46 | 116 | 162 | 61 | 50 | 16 |
| 2011-12 | JBL | パナソニックトライアンズ | 42 | 42 | 481 | 11.5 | 28 | 118 | 23.7% | 149 | 320 | 46.6% | 99 | 154 | 64.3% | 58 | 175 | 233 | 106 | 66 | 19 |
| 2012-13 | JBL | パナソニックトライアンズ | 42 | 41 | 413 | 9.8 | 34 | 119 | 28.6% | 106 | 243 | 43.6% | 99 | 142 | 69.7% | 55 | 159 | 214 | 91 | 69 | 23 |
| 2013-14 | NBL | 日立サンロッカーズ東京 | 54 | 53 | 632 | 11.7 | 63 | 184 | 34.2% | 157 | 362 | 43.4% | 129 | 189 | 68.3% | 79 | 186 | 265 | 110 | 72 | 30 |
| 2014-15 | NBL | 日立サンロッカーズ東京 | 53 | 48 | 526 | 9.9 | 79 | 230 | 34.3% | 102 | 200 | 51.0% | 85 | 116 | 73.3% | 52 | 122 | 174 | 109 | 80 | 24 |
| 2015-16 | NBL | 日立サンロッカーズ東京 | 54 | 52 | 514 | 9.5 | 76 | 218 | 34.9% | 115 | 235 | 48.9% | 56 | 100 | 56.0% | 37 | 120 | 157 | 140 | 86 | 20 |
| 2016-17 | B1 | 日立サンロッカーズ東京・渋谷 | 58 | 57 | 523 | 9 | 60 | 214 | 28.0% | 115 | 267 | 43.1% | 113 | 161 | 70.2% | 88 | 183 | 271 | 171 | 116 | 15 |
| 2017-18 | B1 | サンロッカーズ渋谷 | 44 | 28 | 282 | 6.4 | 30 | 100 | 30.0% | 70 | 158 | 44.3% | 52 | 84 | 61.9% | 42 | 92 | 134 | 80 | 57 | 12 |
| 2018-19 | B1 | サンロッカーズ渋谷 | 49 | 17 | 243 | 5 | 32 | 105 | 30.5% | 55 | 113 | 48.7% | 37 | 55 | 67.3% | 30 | 126 | 156 | 80 | 53 | 14 |
| 2019-20 | B1 | サンロッカーズ渋谷 | 27 | 12 | 74 | 2.7 | 15 | 44 | 34.1% | 10 | 36 | 27.8% | 9 | 17 | 52.9% | 18 | 22 | 40 | 33 | 17 | 5 |
| 2020-21 | B1 | サンロッカーズ渋谷 | 59 | 7 | 242 | 4.1 | 25 | 95 | 26.3% | 50 | 146 | 34.2% | 67 | 95 | 70.5% | 52 | 83 | 135 | 95 | 46 | 13 |
| 2021-22 | B1 | サンロッカーズ渋谷 | 56 | 15 | 147 | 2.6 | 17 | 65 | 26.2% | 32 | 76 | 42.1% | 32 | 47 | 68.1% | 28 | 44 | 72 | 90 | 36 | 5 |
| 【Post Season】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2016-17 | CS | サンロッカーズ渋谷 | 2 | 2 | 18 | 9 | 3 | 9 | 33.3% | 4 | 10 | 40.0% | 1 | 1 | 68.1% | 4 | 2 | 6 | 8 | 5 | 0 |
| 2020-21 | CS | サンロッカーズ渋谷 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0.0% | 0 | 2 | 0.0% | 0 | 0 | 68.1% | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 |

【通算成績】

| Season | League | Game | GS | Points | PTS/G | 3PM | 3PA | 3P% | 2PM | 2PA | 2P% | FTM | FTA | FT% | OR | DR | TR | AS | ST | BS |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Before B League | JBL/NBL- | 356 | 329 | 3508 | 9.9 | 363 | 1133 | 32.0% | 890 | 1957 | 45.5% | 639 | 963 | 68.1% | 406 | 1023 | 1429 | 691 | 509 | 147 |
| B League | B1 | 293 | 136 | 1511 | 5.2 | 179 | 623 | 28.7% | 332 | 796 | 41.7% | 310 | 459 | 67.5% | 258 | 550 | 808 | 549 | 325 | 64 |
| Post Season | CS | 4 | 4 | 18 | 4.5 | 3 | 11 | 27.3% | 4 | 12 | 33.3% | 1 | 1 | 68.1% | 4 | 3 | 7 | 8 | 6 | 0 |
| Career total | | 653 | 469 | 5037 | 7.7 | 545 | 1767 | 30.8% | 1226 | 2765 | 44.3% | 950 | 1423 | 66.8% | 668 | 1576 | 2244 | 1248 | 840 | 211 |

Game= 試合数　GS= スターティング５　Points＝得点数　PTS/G＝1 試合得点平均　3PM=3 ポイント成功数　3PA=3 ポイント試投数　3P%=3 ポイント成功率　2PM= フィールドゴール成功数 2PA= フィールドゴール試投数　2P%=2 ポイント成功率　FTM= フリースロ成功数
FTA= フリースロ試投数　FT%= フリースロー成功率　OR＝オフェンスリバウンド　DR＝ディフェンスリバウンド　TR＝トータルリバウンド　AS＝アシスト　ST＝スティール　BS＝ブロックショット

# KENTA HIROSE History

### 「広瀬健太・誕生！」

1985年7月11日、島根県松江市生まれ。元レスリング国体選手の父とバレーボール 全日本代表選手の母というスポーツ一家に生まれ、幼い頃からレスリングと共にバスケットボールを始める。4 歳から始めたレスリングでは、小学 6 年生の時に全国小学生レスリング選手権で 2 位に輝き、中学 3 年生の 4 月には西日本中学生レスリング選手権で優勝。この大会をもってレスリングから離れ、バスケ 1 本に絞った。

### 「中学・高校生時代」～松江東の伝説～

島根県松江市立湖東中学校に進学後、3 年生時に島根県総体優勝、中国総体優勝を遂げ、全国総体でもベスト16に輝いた。高校は県内の島根県立松江東高等学校へ入学。2 年生時にはインターハイ初出場、3 年生時にはベスト 8 へとチームを導いた。高校卒業後、サンロッカーズ渋谷のホームアリーナである青山学院大学に入学。大学 4 年生時にはインカレで優勝。広瀬は最優秀選手とアシスト王を受賞した。

### 「プロ一年目」～ルーキー・オブ・ザ・イヤー～

青山学院大学卒業後は、当時のトップリーグである JBL（日本バスケットボールリーグ）のパナソニックトライアンズに入団。リーグ制覇13回、天皇杯優勝10回を誇る名門で、広瀬は加入初年度からレギュラーシーズン全35試合中、33試合に出場。うち20試合でスターターを務めた。オールスターにも選出される活躍を見せ、チームはプレーオフに進出。しかし、セミファイナルで日立サンロッカーズ（現・サンロッカーズ渋谷）に破れ、全体3位で終えた。新人ながら鮮烈なデビューを果たし、ルーキー・オブ・ザ・イヤーに輝いた。

### 「トライアンズでの活躍」

加入2年目以降も、多くの試合にスターターで出場し好成績を残す。オールスターにも4年連続で選出される。現在サンロッカーズ渋谷のアシスタントコーチを務める木下博之と共にチームを牽引していた。在籍中にリーグ制覇は叶わなかったが、チームは毎シーズン上位に入り、3 度もプレーオフへ進出した。広瀬個人・チーム共に順調な最中、経営悪化に伴い突如休部が決定。予期しえない形で、2012-13シーズンがトライアンズのラストシーズンとなった。

### 「日本代表としての活躍」

トライアンズ入団後、日本代表として国際試合の舞台も多く経験。2009年、第25回ユニバーシアード（17～28歳の選手でチームを形成）競技大会にて、大卒ルーキーながら日本代表に選出。このときの代表には、阿部友和（福岡）、西村文男（千葉）、古川孝敏（秋田）、金丸晃輔、根来新之助（三遠）、篠山竜青（川崎）、満原優樹（佐賀）、比江島慎（宇都宮）、その後Bリーグでしのぎを削った盟友らが名を連ねていた。対戦結果は、6 戦して 2 勝4敗。世界との壁の高さを実感したものの、広瀬は5試合でのスターター出場を含め全 6 試合に出場。各試合平均27分出場、12.7ポイント、7.7リバウンド、2.0スティールを記録し、このうち2戦でダブル・ダブルを達成するなど好成績を収めた。この年、12月に香港で開催された第5回東アジア競技大会にもフル代表に選出。チームメンバーには酒井泰滋、竹内譲次（大阪）など後のサンロッカーズのチームメイトも選抜された。グループリーグを1位で通過した日本は準決勝でチャイニーズ・タイペイに惜敗。決勝には駒を進められず、3位決定戦で強敵中国と対戦。序盤から激しいディフェンスでリードを作ると、高さに勝る中国を相手に好ゲームを展開。最後まで集中を切らさず79-71で勝利し、見事銅メダルを獲得した。翌年の2010年には第16回アジア競技大会日本代表にも木下博之と共に選抜され、予選リーグを3勝1敗で勝ち抜き、インド、北朝鮮を倒し準決勝進出。しかし準決勝で韓国に僅差で敗れ、その後の3位決定戦も敗北。4 位に終わった。
さらに2011年第2回東アジアバスケットボール選手権大会の代表にも選出され、予選リーグを勝ち上がり、決勝まで駒を進める。決勝で敗れるも、銀メダルを獲得した。同年9月には、ロンドンオリンピックへの出場をかけた第26回FIBA ASIA男子バスケットボール選手権大会兼2012年ロンドンオリンピックアジア地区予選の代表にも選出された。凄まじいのはここまで記載した国際試合に広瀬はなんと全試合出場。海外選手に対抗できるフィジカルがチームの屋台骨としての広瀬の貢献度は高かった。当時のチーム愛称は、「ハヤブサジャパン」。アカツキファイブと呼ばれる以前のまさに日本バスケの黎明期の出来事である。

### 「第 88 回天皇杯」～トライアンズ､最後の戦い～

トライアンズでのラストシーズン。2013年1月にはチームにとって最後の天皇杯に出場。日立サンロッカーズ、トヨタ自動車アルバルク（現アルバルク東京）を下しファイナル進出を決め、決勝の相手はアイシン シーホース（現シーホース三河）。この試合でもスターターとしてコートに立つ。この時のチームメイトには、金丸晃輔、渡邉裕規（宇都宮）、らがいた。
開始5分で10点ビハインドを背負うも、第2Qに広瀬の3Pや金丸の得点で同点とするも、後が続かず、前半が終わった時点で、26-40と14点差をつけられる。
後半に入ってからも広瀬がチームを引っ張り、第3Qに逆転を果たす。最終的には1ポゼッションを争う展開となり、残り 39 秒で 2 点差でリード。ファウルゲームに持ち込まれるも、最後に 木 下 博 之 がフリースローを決め、64-61で勝利。トライアンズのラストシーズンに天皇杯優勝という華を添えた。

### 「NBL時代」～サンロッカーズへの移籍～

天皇杯優勝を果たしたが、惜しくもプレーオフ進出を逃し2012-13シーズンが終了し、トライアンズは解散。解散したチームから発表されたのは、各選手の移籍先。その中に、「広瀬健太→日立サンロッカーズ東京」の文字。サンロッカーズへの移籍が決定した。広瀬の移籍とタイミングを同じく、JBL（日本バスケットボールリーグ）は、チームの参加条件などを変更し、NBL（ナショナル・バスケットボール・リーグ）と名称を変更。チームもリーグも、新体制で望む形になった。東芝ブレイブサンダース神奈川（現川崎ブレイブサンダース）がリーグ優勝を果たしたNBL初年度は、18勝36敗東地区5位と振るわず、サンロッカーズは5年ぶりにプレーオフ進出を逃した。その中でも広瀬はシーズンを通して、全54試合出場。うち53試合でスターターを務めた。このシーズンは平均26.9分出場、11.7点、4.9リバウンド、1.3スティールという素晴らしい数字を残す。シーズン全体の出場時間はチーム最長という貢献度であった。オフの2014年8月には、第36回男子ウィリアム・ジョーンズカップに日本代表として選出。満原、渡邉裕規、田中大貴（A 東京）、富樫勇樹（千葉J）ら若手の増えたチームでキャプテンを任された。

### 「地区優勝・第 90 回天皇杯制覇」

2014-15シーズンには前年度のメンバーである広瀬、満原、竹内譲次、酒井泰滋、川崎勇人（秋田）、伊藤駿（秋田）らに加え、ジョシュ・ハイトベルト、アイラ・ブラウン（大阪）、アキ・チェンバース（群馬）が加入。さらに、木下博之と再び同じユニフォームを着ることになった。開幕以来快調に勝ち星を重ねたサンロッカーズは、12連勝を含む45勝9敗、勝率.833で東地区1位。地区優勝を飾った。2015年1月には天皇杯では。サンロッカーズとして発足以来初の決勝戦に進出。広島ドラゴンフライズ相手に前半からリードを保ち、81-66で試合終了。サンロッカーズにとって初めての全国制覇、広瀬個人としては2度目の天皇杯優勝を果たした。
その後、レギュラーシーズン東地区1位でプレーオフに進出。千葉ジェッツを下しセミファイナルではトヨタ自動車アルバルク東京と対戦するも、結果は1勝2敗。2冠達成は叶わなかった。

### 「NBL 最終年、そしてＢリーグ誕生」～サンロッカーズ渋谷へ～

2015-16シーズンは34勝20敗の全体5位、プレーオフには進出するも準々決勝で敗退。ちなみに2016年1月には東海大学からアーリーエントリーで、現キャプテンのベンドラメ礼生がチームに加入。2015-16シーズンをもってNBLは終了し、翌2016-17シーズンから新たにBリーグが発足。サンロッカーズはチームの名称を「日立サンロッカーズ東京・渋谷」に変更し、ホームタウンを東京都渋谷区、ホームアリーナを広瀬の母校・青山学院記念館に定めた。現在の「サンロッカーズ渋谷」誕生の瞬間である。2016年9月24日にアウェーで迎えた横浜ビー・コルセアーズ戦でB1・サンロッカーズ渋谷としての初陣で見事勝利。10月8日、9日には富山グラウジーズを迎え、青山学院記念館での初のホームゲームを開催し、見事連勝で飾った。このゲームでも広瀬は、スターターとして勝利に貢献している。Bリーグ初年度は、32勝28敗（勝率.533）で、中地区3位、ワイルドカードでチャンピオンシップ（以下、CS）進出をつかんでいる。CS初戦で川崎に敗退したものの、レギュラーシーズンでは、58試合中57ゲームでスターター、271リバウンド、171アシスト、116スティールといずれもシーズンキャリアハイ。スティールは平均2.0でリーグ1位を獲得、Bリーグ初代スティール王に輝いた。ベンドラメ礼生とともに表彰された。

### 「初の大怪我」～左ひざ前十字靭帯断裂～

2017-18シーズンからは、チーム名称を現行のサンロッカーズ渋谷に変更。シーズン前半はロバート・サクレ、ジョシュ・ハレルソン（福島）を中心に10連勝を含む18勝10敗と好調な滑り出し。しかし、怪我人などの影響もありシーズン中盤から失速。28勝32敗と負け越してシーズンを終える。広瀬個人としても、怪我の影響もあり出場は44試合に留まった。翌2018-19シーズンはさらなる試練のシーズンとなった。オフにライアン・ケリーを獲得、ロバート・サクレとのコンビに期待が寄せられたが、開幕から2勝6敗と大きく負けが先行。シーズン中にはヘッドコーチが交代し、現在もチームを率いる伊佐勉が新HCに就任した。選手の起用法に変化が生まれ、チームは活性化。ヘッドコーチの期待に応え、チームのディフェンスを牽引した広瀬。開幕の連敗から立て直しをはかり、勝率を5割近くまで戻しつつあったシーズン終盤、広瀬をさらなる試練が襲う。
2019年３月31日。レバンガ北海道戦で相手選手の足を踏み転倒。左ひざの前十字じん帯断裂という大怪我を負う。報道時の全治は“未定”。ベテランと呼ばれても おかしくない33歳で初めての大怪我。前十字じん帯断裂からのスポーツ復帰は一般的には8.3ヶ月。トップリーグへの復帰、1 周り以上大きな外国籍選手相手にマッチアップする広瀬にとって厳しい道のりが想像できた。チームの復調と広瀬の復帰を信じるファンにも耐え忍ぶオフとなった。本人も経験のない大きな怪我に、動揺や不安もあったと言う。

### 「復帰」～日本一へ！～

人生最大の大怪我だったが、広瀬の選択はただ一つ。再びコートに戻ることだった。手術を行い、復帰に向けてリハビリを開始。早期の復帰をめざした。このオフには清水太志郎（三遠AC）の引退、伊藤、満原、秋葉真司（現・SR渋谷U15HC）、長谷川智也（越谷）が移籍。さらにロバート・サクレの突然の引退という衝撃のニュースも飛び交った。その後、石井謙祐、関野剛平、田渡修人、渡辺竜之佑、野口大介（長崎）、セパスチャン・サイズ（A 東京）、チャールズ・ジャクソン（横浜BC）らの加入が発表。新たなチームでシーズン開幕を待つことになった。

開幕戦の相手は強敵千葉ジェッツ。Bリーグ開幕以降、地区1位を2度、天皇杯を3連覇という強豪となった千葉ジェッツに、ここまで通算1勝13敗と大きく負け越していたサンロッカーズはロスター全員がタイムシェアを行い４０分間高いインテンシティを保つスタイルで、見事開幕2連勝。選手交代の多さからアリーナアナウンサーのパトリック・ユウが「サンロッカーズ、全員交代です！」の名台詞が生まれたのもこのシーズンだ。この時ベンチにはもう一つ見慣れない景色があった。それはリハビリ中で試合に出場できず、ベンチにいた広瀬の“ある行動”である。普段は物静かで、クールな広瀬。その広瀬がベンチで観客と同じように、イエローボードを持ってサンロッカーズの応援スタイルである「ファーストバスケットまで立って応援」を行っていたのである。これには、広瀬をよく知るファンも驚いたと言う。シーズンも進み11月17日、悪夢の大怪我から7ヶ月。ついに、広瀬健太がコートに帰ってきた。京都ハンナリーズを迎えたホームゲーム。第1Qに伊佐ヘッドコーチがベンチの広瀬に声をかけ、害判に交代を告げ、会場がざわめきたった。「おかえり健太」のボードを掲げたファンの歓声を受け、2分4秒と短い時間ながらも、ディフェンスにオフェンスにとハッスルし、怪我の影響など感じさせないプレーを披露。ファンの歓迎に「嬉しくも恥ずかしい」と感想を漏らしていた。その後もチームは好調を維持し、迎えた1月12日。元号が令和に変わり、初めての天皇杯。レバンガ北海道、滋賀レイクスターズを下したサンロッカーズ渋谷は、2015年以来の決勝の舞台へ。相手は川崎ブレイブサンダース。この試合も広瀬はスターターとして出場。チームディフェンスの一端を担い、終盤は1ポゼッションを争う激しい展開に。ファウルゲームとなり、川崎のシュートが外れたところへ、リバウンドに飛び込んだ広瀬はファウルを受け、フリースローを奪った。残り0.8秒、リードは3点と外せばゲームがわからなくなる状況でフリースローラインに立った広瀬は、落ち着き払った表情で1本目を決めた。4点差。ベンドラメ礼生がガッツポーズ。続く2本目。きっちりと決めたところで、広瀬からも笑みがこぼれた。そして、ブザーが鳴り試合終了を告げた。この瞬間、サンロッカーズにとって、2015年以来2度目令和初の天皇杯優勝を飾る。Bリーグ開幕後、サンロッカーズ渋谷にとって初タイトルとなった。広瀬は自身3度目の優勝。最後は自身のシュートで決めた。

### 「シーズン中止、そして CS 出場」

その後、2019-20シーズンはシーズン途中でまさかの中止。非常事態からのオフを迎え、2020-21シーズンが開幕。チームは開幕３連敗でスタートするも、前年度の全員バスケを継続。徐々にチームがまとまってくると復調しCS圏内に復帰するも、その後勝ち星を逃してしまう期間が続く。ディフェンスのギアを上げたサンロッカーズは、最終的にワイルドカードで開幕年以来のCS出場となったが、アウェーで宇都宮ブレックスに完敗。クォーターファイナルでの敗退となった。このシーズン、スターターは減ったものの59試合に出場した広瀬。持ち味のディフェンスの強度でチームに貢献した。2021-22シーズンもコロナの影響が残る中で開幕。広瀬は開幕戦でスターターを務めた。その開幕戦はベンドラメのブザービーターでの劇的勝利。開幕3連勝で幕を開けた。12月に入ると、アウェーの連戦、天皇杯の過密スケジュールなどもあり失速。怪我人なども重なり、メンバーをやりくりしつつ厳しい日程をこなしていく。後がなくなったシーズン終盤、土依際で踏みとどまったサンロッカーズが1ヶ月以上にわたるワイルドカード争いを繰り広げ、ここぞという試合で勝利を奪った。
シーズン佳境のホーム北海道戦。2連勝でCSに望みを繋いだこの試合の後、ファン感謝祭が行われた。選手・コーチ・スタッフともに笑顔が見えた感謝祭で、広瀬はゲームやクイズでも大活躍。見事、感謝祭のMVP「LIXIL賞」を受賞。インタビューでは意気込みとともに、ファンに向けてめでてCS出場を誓った。その後、2021-22シーズンのホームゲーム最終戦・群馬クレインサンダーズ戦でも勝利し、千葉ジェッツとのシーズン最終戦にCS進出の望みを賭けることになった。

### 「最後の勝負」～広瀬の涙～

シーズン最終戦はアウェーでの千葉ジェッツ戦。チャンピオンシップ出場が懸かるサンロッカーズと東地区優勝が懸かる千葉ジェッツ。サンロッカーズは勝たなければならない崖っぷちの状況だった。第1戦目は前半を32-30で2点をリードして折り返す。後半も接戦が続き、最終4Qの残り17秒で65-66と1点ビハインド。逆転をねらうも、千葉ジェッツに隙を突かれ第1戦目は65-70で敗戦。しかし、チャンピオンシップ出場を争うシーホース三河も敗戦したため、第2戦に望みが繋がれた。第2戦は前半を終わって8点のビハインドの32-40。ハーフタイム明けの3Qに、じわじわと差を詰めると第4Qについに逆転。そこからは、1ポゼッションを争うシーソーゲームに。息を飲む展開のなか、富樫に3Pを決められ4点差。逆転を狙い2点を返すが、残り0.1秒。そして、ここでメンバー交代。伊佐HCは、0.1秒での逆転を狙い、広瀬を投入。これが、「プロバスケットボール選手」広瀬健太の最後のプレーとなった。ブザーが鳴った瞬間、ユニフォームで顔を覆う広瀬。かつてともに戦った富樫と抱き合う姿が画面に映し出された。悔しさを胸に秘めた、男泣きだった。

**広瀬健太選手 引退を記念したその他コンテンツはこちらを御覧ください**

現役引退特設ページ　スペシャルムービー　引退会見映像　引退記念フォトギャラリー映像